

立木とネットを利用した軽量な シカ捕獲用囲いワナの開発

[分類] 普及

[所属名] 果樹試験場 環境部

[研究期間]

令和5～7年度

[背景とねらい]

県では、ニホンジカ（以下「シカ」）の被害発生を許容できる適切な生息密度するため、捕獲強化と防護柵による総合的な被害軽減対策を進めています。これまで果樹試験場では、効率的にシカを捕獲するための技術として「獣類捕獲用ゲート」（以下「ゲート」）を開発しました（図1）。しかし、囲いワナの多くは金属製で重量があるため、トラックの入れない場所への運搬や設置が困難な面もありました。そこで、このゲートの原理を活かして、シカ捕獲用の囲いワナの構造を簡素化し、軽量かつ設置が簡単なワナの開発に取り組みました。

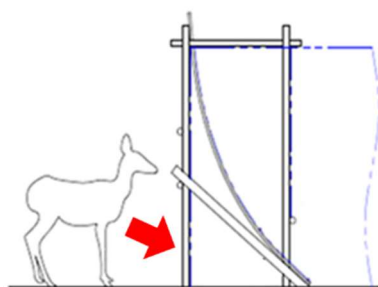


図1 侵入口に取り付ける獣類捕獲用ゲート

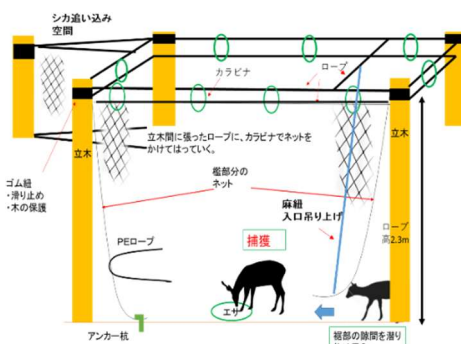


図2 今回開発したネット式囲いワナ概略図

[研究の成果]

1. 柵は、シカ防護柵用の高強力ポリエチレン繊維ネット（イザナス®製獣害防止柵、東エコーセン、以下「ネット」という。）を使用し、支柱は現地の立木を利用し組み立てることで、資材一式を軽量化し、容易に運搬できるネット式囲いワナを開発しました（図2、写真1、2）。設置後は、ネット裾部全体を50cmの高さに上げ、シカをワナ内へ誘導し、餌場のすりこみを行いつつ、2週間程度ワナの馴化期間を設けます。その後入口を1か所にし、摂食を確認しながら、約5cm間隔で段階的に入口の高さを下げていくことでシカを捕獲しました。
2. ネット式囲いワナを湯浅町現地3か所に設置し、同じ場所で3年間シカの捕獲を検証したところ、A地点では、1年目3頭、2年目2頭、3年目に1頭を捕獲しました。B地点では、1年目に2頭、2年目に4頭、3年目に4頭捕獲を捕獲しました。C地点では、1年目に3頭、2年目に4頭、3年目に1頭捕獲しました（表1）。
3. 印南町の捕獲従事者主体による現地捕獲実証試験では、1年目（令和6年12月12日～令和7年3月18日）に4頭、2年目（令和7年11月7日～令和8年1月31日）に1頭捕獲しました（表2）。



写真1 資材一式を持った様子



写真2 山林内に設置したネット式囲いワナ

表1 湯浅町内におけるネット式囲いワナの捕獲実績（3年間）

設置場所	ワナ設置日	1年目（※）			2年目（※）			3年目（※）		
		捕獲数（頭）	捕獲年月日	個体識別又は逃走	捕獲数（頭）	捕獲年月日	個体識別又は逃走	捕獲数（頭）	捕獲年月日	個体識別又は逃走
湯浅町A	R5. 4. 24	3	R5. 6. 21	幼獣 オス	2	R6. 6. 3	成獣 メス	1	R8. 2. 12	成獣 メス
			R5. 6. 26	幼獣 オス		R6. 11. 20	幼獣 メス			
			R5. 12. 20	成獣 オス						
湯浅町B	R5. 5. 23	2	R5. 12. 8	幼獣 メス	4	R6. 8. 13	成獣 メス	4	R7. 5. 7	成獣 メス
			R6. 2. 8	幼獣 オス		R6. 8. 13	幼獣 メス		R7. 9. 18	幼獣 メス
						R7. 1. 6	幼獣 メス		R7. 11. 10	幼獣 オス
						R7. 1. 23	幼獣 メス		R7. 12. 1	成獣 オス
湯浅町C	R5. 7. 25	3	R5. 10. 12	幼獣 オス	4	R6. 7. 29	成獣 メス	1	R7. 6. 30	成獣 オス
			R5. 11. 1	幼獣 メス		R6. 8. 26	幼獣 メス			
			R5. 12. 18	幼獣 メス		R6. 8. 26	幼獣 メス			
						R6. 10. 25	成獣 オス			

※ 1年目：令和5年度、2年目：令和6年度、3年目：令和7年度

表2 印南町内におけるネット式囲いワナ現地実証の捕獲実績（2年間）

設置場所	ワナ設置日	1年目（※）			ワナ設置日	2年目（※）		
		捕獲数（頭）	捕獲年月日	個体識別又は逃走		捕獲数（頭）	捕獲年月日	個体識別又は逃走
印南町	R6. 12. 12	4	R6. 12. 18	成獣 メス	R7. 11. 7	1	R8. 1. 1	成獣 メス
			R6. 12. 18	幼獣 オス				
			R7. 2. 11	成獣 メス				
			R7. 3. 18	成獣 メス				

※ 1年目：令和6年12月12日～令和7年3月18日
2年目：令和7年11月7日～令和8年1月31日

〔成果のポイントと活用〕

1. このネット式囲いワナは、軽量であるため運搬が容易で、設置が簡単です。また、資材費は、資材一式で約10万円程度です。
2. このワナは、ネットに慣れさせるまで根気が必要ですが、捕獲されたことに気づかないため、ワナ周辺にいるシカの警戒心を高めず、同じ場所での持続的な捕獲が可能です。
3. 頭を出せる隙間があるとそこから逃走されるため、餌管理等の巡回時に点検し、ネットの噛み切りによる破損箇所があればその都度修繕することが必要です。
4. 囲いワナの一部に奥行きが狭くなる空間を設け、捕獲したシカをその空間へ追い込むことで、シカの動きを制限（保定）でき、止めさし処理がしやすくなります（図2）。
5. 現場での捕獲に活用していただけるようマニュアルを作成しました。

〔その他〕

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業） 問い合わせ先 TEL：0737-52-4320